

十勝発展へさまざまな提言



「目指せ宇宙基地」の連載をまとめた冊子を手にもつ伏見町長

「目指せ宇宙基地」 87年

大樹町長

伏見悦夫さん(64)

80年代後半の当時は、町の開発振興課長として、地元で航空宇宙産業基地誘致の可能性を探っていました。初めは「宇宙の話」と思っていた宇宙産業が、勉強していく

や欧州を海外に出向いて積極的に取材し、それをつづぐに活字にしてくれたのはうれしかったですね。私も米国人を視察しましたが、勝毎に掲載される最新情報から学ぶ

クト「成層圏プラットフォーム」の実験が年間通して行われ、大樹の広大な敷地が活用されました。ほかにも道内の研究者が「大樹」と名づけた超小利権の打ち上げを自指すなど、1つ1つの積み重ねが徐々に形になっていることを実感しています。今後も記事で大樹の取り組みを紹介

応援団の役割に感謝

最新情報が大きな刺激

うちに関連分野を含めて、宇宙が広く、波及効果のある産業だと分かってきたんですね。これは21世紀に向けた夢のあるテーマだと実感しています。

ここでは多く、大いに刺激を受けました。地元交通へのPR効果も大き、地域を盛り上げる応援団の役割が拍子打て

介していたときながら、宇宙開発への貢献を誇りたいと思っています。

ちょうどそのころ、「目指せ宇宙基地」の見出しで、1年間を通じた記事を展開してもらいました。記者の皆さんがNASA(米航空宇宙局)航空公園で国の一大プロジェクト

国の宇宙開発予算は以前と比較してはたしてどの状態ですが、最初の構想から約20年が経過した今年度は、町多目的

「目指せ宇宙基地」の連載をまとめた冊子は、今も大切に保管しています。当時はその冊子を持って歩いて各方面を回っていました。一番分かりやすく情報誌の詰まった資料でしたからね。

がNASA(米航空宇宙局)

航空公園で国の一大プロジェクト

(松村智裕)